



2014~2015

# 沼田ロータリークラブ会報

ロータリーに輝きを  
LIGHT UP ROTARY

2014~2015年度 国際ロータリー会長 ゲイリーC.K.ホアン

例会日…毎週火曜日 12:30 会長 山田龍之介 幹事 桑原滋 会報編集 桑原伸一郎  
例会場 ディラン 事務所 沼田市東原新町1540 利根郡信用金庫本店内 TEL 0278-24-1177

第2835回 例会報告

2015年4月23日

記録 桑原伸一郎

例会予告

4/28 沼田中学校長 大竹孝夫 先生

5/5 取消日

<http://www.rid2840.jp/numata/>

2015年4月28日発行 No.39

沼田市先生の日

## 子どものこころ 詩のこころ

詩人・児童文学作家 工藤直子先生



### ■講師紹介

1935年、台湾に生まれる。お茶の水女子大学中国文学科卒業後、コピーライターとして博報堂に入社し、後フリーとなる。1983年『てつがくのライオン』で日本児童文学者新人賞、1985年『ともだちは海のおい』で産経児童出版文化賞、1990年『ともだちは緑のおい』で芸術選奨新人賞、2008年『のはらうたV』で野間児童文芸賞受賞。平易な言葉を用いた子ども向けの詩を多く執筆し、「おれはかまきり」（『のはらうた』所収）など国語教科書に収録されている作品も多い。

### ■卓 話

沼田は初めてです。群馬は何回か来ていますけど、私の作詞した曲をコンサートで聞いていただいたりもしています。

幼小中学校等もお伺いしてお話する機会も多くあり、その時の感想や「のはらうた」の感想をいろいろいただき、更にそれをまとめて、もう5巻目を出版しています。

作品は生き物、動物、昆虫、石、星に名前を付けて、それぞれの気持ちを詩にして、全部平仮名で書いています。30年間で125名の作品があり、一番人気はやはり「かまきりりゅうじ」かな。国語の教科書に載っていて、最初の登場ですから、その当時の子供が今は先生という立場で教えています。その他にも「てんとうむしまる」や「あげはゆり子」など、いろいろな名前で詩っています。

朗読するのも、いろいろなバリエーションで、子供になったり大人に、老人にいろいろな気持ちで読み上げます。読み手が聞き手にどう感じてもらうか、それぞれ想像してもら

い今はどんな「かまきりりゅうじ」なのか感じてもらうか、それぞれ想像してもらい今はどんな「かまきりりゅうじ」なのか感じてもらうのです。そして行間でその時々を表現します。文字も活字でなく手書きです。活字は形が決まっています読みやすいのですが、それをそのまま読むと無表情になりがちです。

一つの詩ですが、かまきりりゅうじがどんな人なのか、何才かどんな性格かなど話す前に各自が考えることでいろいろな人、自分のりゅうじが登場してきます。また、それを私に手紙等で感想を伝えてもらい、どんどん輪が広がります。

朗読は作品をどう解釈して言葉と音にしていくかです。よく作品を作者の気持ちを解説したり、作者が粹をはめたりすることがありますが、私の作品は基本的に読者のものと思っています。確かに作者の考え、言っている事は大事です。作品を読み感動しすばらしい作品に出会う、読者は受け身であると思っていた。読者は一生懸命作品を読み、作者の意図を感じている。でもそれは読者それぞれの感じ方であり、それぞれの思いであります。ですから作品は作者のものであり、読者のものでもあります。作品を読んで大好きになる。それを感じられる自分を褒めてほしい好きになるという気持ちはそうだと思います。

気に入った作品があったら知り合いに伝えてほしい、言葉はおもしろいと思ってほしい。私の作品は好きなように使って子供達に伝えて下さい。子供達と私の登場人物を広げて楽しんでいただき自由に表言して下さい。

ある時若い先生から小学2年生が書いたものを受け取りました。その子のはらうのた先生に会うと聞いて書いた感想です。おけらを詩ったものです。全員が全部元気なわけではなく、落ち込んだり悩んだりいろいろです。今の小学2年生がおけらを知り、その気持ちになるにはすごいことだと思います。おけらおやすみという題で、寝ていると地球に抱かれている気がするとおまじないをかけ安心して眠るという詩の感想でした。その子は何度も読んで感じてくれたと思います。地球とおけらの関係を、母親と赤ちゃんの関係と感じてくれて、私はうれしくて、7才子と60才を越える私が同じ気持ちになれたのですから。のはらうたは、私と作品の中のみんなが

一つになり、その作品の気持ちが読み手とつながり友達となります。

戦中台湾にいて、日本に引き上げ帰ってきまして、小学校もいろいろ代わりました。ある学校の時先生が毎朝本を読んでくれました。私は当時はやんちゃな子で飛び回っているような子でした。その時の話が心の隅に残っていたのか、30才代でふとそれに気付いてこの世界に入ったのです。その先生とはそれっきりでしたが、言葉のおもしろさに30才過ぎて思い出させていただきました。

先生方は現場で子供達と向き合っています。ぜひ、皆様に私のあの時の気持ちを伝えていただきたい。いろいろな子供がいる、でも先生は1人です。

朝日小学生新聞と出版社が3年間のはら村を開放して、一般作品を募っていただき、2万点を超える作品が集まりました。普通ですとそれを厳選してから私が見るパターンですが、私は全部目を通させてもらいました。大変でしたが楽しかった。投稿は通常女子が多いのですが、のはらうたは、半々か男子が少し多かったと思います。男子はかぶと虫が多く、中にはゴキブリやなめくじもいました。文章の書き方もいろいろで、横書きが主でしたが縦書きもあり安心しました。特に感心した作品の一つに、北海道小学1年の「け」けむしのすけけいこの名前で毛虫の作品でした。作品は紙の中全て大小いろいろな「け」という文字が並び、最後にけだらけのケムシとありました。この自由な発想と表現に感動しました。

子供の時の気持ちが成長するにつれて、社会の中で削れてしまい薄れてしまうが、どこかに残っていると思います。自分の中にある子供の心、そこに詩の心があり、詩の中に魂が蘇ってきて感じられる楽しさがある。

いろんな出会いがあり、子供達を守りサポートする事も大事で、その芽を気持ちよく伸ばしていただきたい。私の作品で、私の気持ちにふれたと思う作品は自由に使って下さい。

私もまだまだわからない事、気づかない事、悩む事今でもあります。でも今日皆さんに会えて話せてよかったと思います。今日はありがとうございました。